

テンブス

2016年（平成28年）58号



春の町家の雛めぐり

も く じ

水間街道沿いの道しるべ その1

平成27年度の埋蔵文化財調査

古絵図をひも解く

貝塚寺内町の春をひな人形が彩りました



水間街道沿いの道しるべ その1

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。市内の清見（せちご）、名越（なごせ）、森、三ツ松、水間の5つの地区、古くは木島谷（きのしまだに）とよばれた地域には、現在も旧街道の面影がよく残されています。

本来の水間街道は、旧岸和田城下町および旧貝塚寺内町（じないまち）方面、そして和泉葛城山を越えて旧紀伊国（和歌山県）方面、それぞれからの街道の総称です。当然のことながら、水間寺への参詣目的だけではなく、街道沿いの集落を結ぶ生活道としても古くから重要な役割を果たしてきました。



水間街道沿いの道しるべ

今回紹介するのは旧貝塚寺内町方面から水間に至る街道沿いにのこる道しるべです。貝塚からの街道は、大阪府道204号堺阪南線（旧国道26号）の西町交差点で紀州街道から分岐し、海塚や福田、鳥羽など麻生郷（あそごう）とよばれた地域を通して麻生中で熊野街道と一時合流します。その後、清児から水間までの木島谷地域を抜け、水間寺に至ります。

以下、西町から水間までの街道のうち、海塚から麻生中までの間にのこる5基の道しるべを紹介します。

①水間街道道標1（海塚）

現在は貝塚警察署前庭の植え込みに建てられている水間街道を示す道しるべです。上部が破損しており、おそらく「水間」と刻まれた文字が欠けていますが、正面に「寺観音道」という文字がのこっています。側面には「十一月」、「つか 枡屋（ますや）太助」という文字がのこっており、建立年代は不明ですが、ある年の11月に貝塚居住の枡屋太助という人物によって建てられたものであることがわかります。本来の水間街道は警察署前の道路よりもう一本大阪側になることから、もと建てられた水間街道沿いから移動してきたものと思われる。

②水間街道道標2（鳥羽）

海塚大池の堤にある小堂内にまつられている道しるべで、岸和田、貝塚、それぞれの方向を示したものです。正面に地蔵菩薩立像（じぞうぼさつりゅうぞう）を浮き彫りし、その左右に「右 岸和田道」、「左 貝塚道」という文字が刻まれています。

③水間街道町石1（鳥羽）

鳥羽の個人住宅の門前に建てられている水間寺までの距離を示した町石（ちょういし）という道しるべです。1丁（=町）は約109mで、正面に刻まれた「三十三丁」は約3.6kmになります。側面には「貝 三平」という文字がのこり、貝塚居住の三平という人物によって建てられたものとわかります。

④水間街道道標3（麻生中）

麻生中地車（だんじり）庫前の神社跡地の石祠内にまつられている道しるべで、熊野街道、貝塚、それぞれの方向を示した道しるべです。正面に地蔵菩薩立像を浮き彫りし、その左右に「右大ぐり道」、「左 かいづか」と刻まれています。「大ぐり道」は「小栗道」のことで、熊野街道の別称である小栗街道を意味しています。テンプス第57号の「熊野街道沿いの道しるべ」でも紹介した通り、江戸時代の熊野街道は「小栗道」とよぶのが一般的だったようです。また、台座には、「貝 魚 力」という建立者名と思われる文字が刻まれています。

⑤水間街道町石2（麻生中）

水間街道沿いの三叉路の一角に建てられている水間寺までの距離を示した町石という道しるべです。正面に刻まれた「廿（にじゅう）七丁」は約2.9kmになります。側面には「貝 丸徳」という文字がのこり、貝塚居住の丸徳という人物によって建てられたものとわかります。

※次号以降、「水間街道沿いの道しるべ その2」では、清児から水間まで間にのこる道しるべを紹介する予定です。

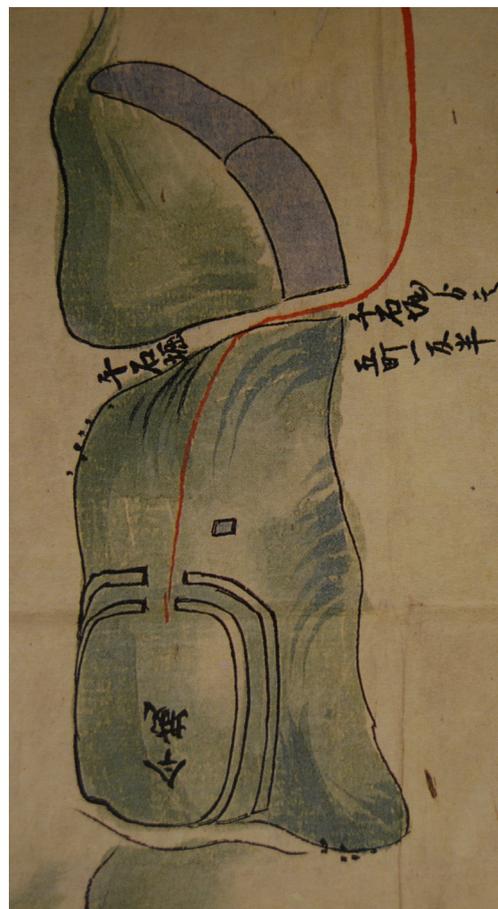
平成 27 年度の埋蔵文化財調査

平成 27 年度の発掘調査は、平成 28 年 1 月末現在、遺跡内の確認・発掘調査を 9 件、遺跡範囲外の試掘調査を 5 件実施しました。

千石堀城跡の調査

引き続き実施している千石堀城跡の調査は、堀跡を確認している地点から範囲を広げて、城の範囲がどこまで広がるのか確認調査を実施しています。まず、根来出城配置図に描かれた海側の丘陵部分で確認調査を行いました。絵図では、堀など城に関する表現はされていません。

今回調査した地点は、昭和 20 年頃に国立大阪療養所として、その後は大阪市貝塚ピクニックセンターとして使用されてきました。6 カ所（下図 1～6）で確認調査を行いました。盛土、攪乱（かくらん）層のみで、城に関する遺物や遺構はないことがわかりました。



根来出城配置図（部分） 岸和田城所蔵

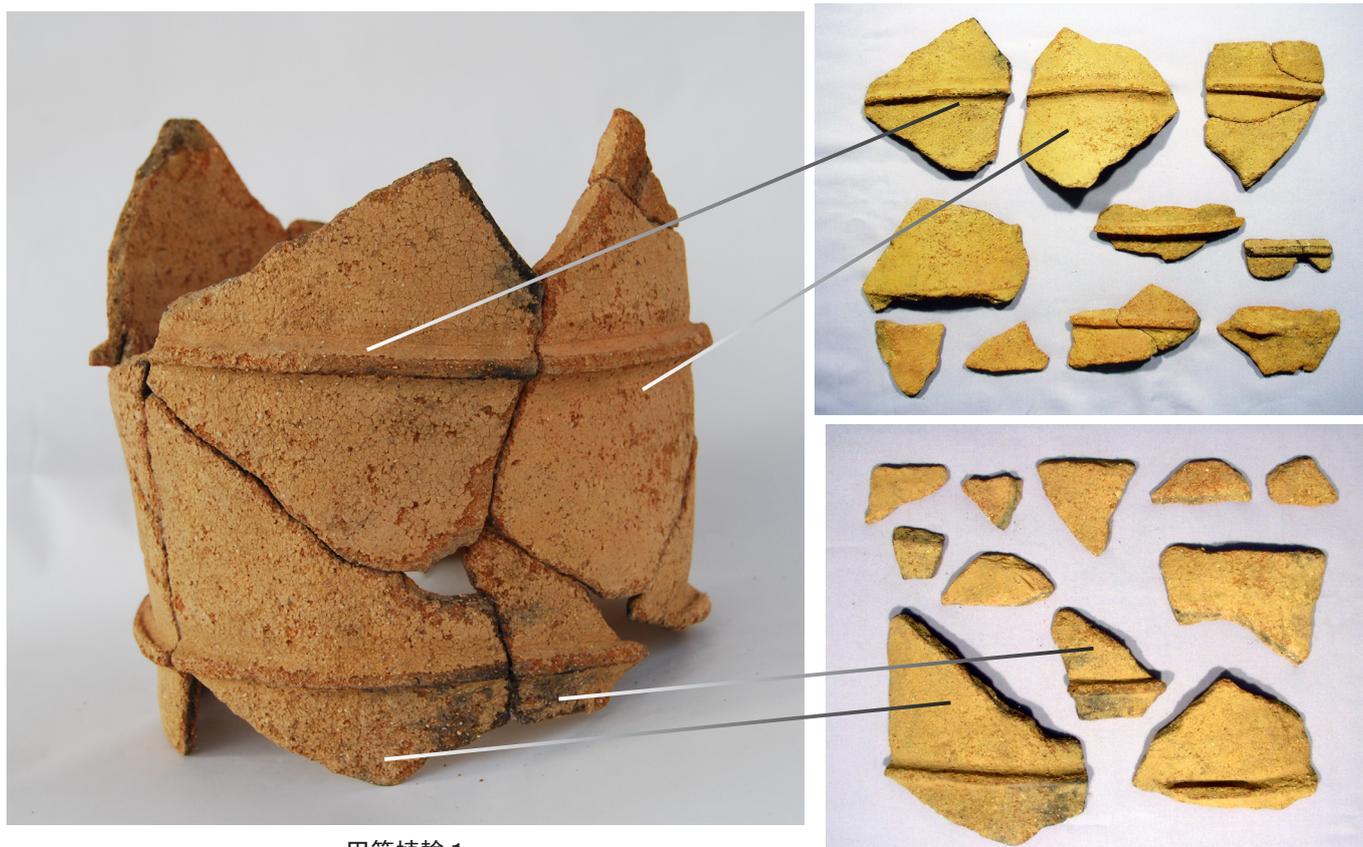
遺跡名	調査 件数	調査面積 (㎡)	遺跡名	調査 件数	調査面積 (㎡)
小瀬五所山遺跡	1	7.5	貝塚寺内町遺跡	1	6.0
小瀬遺跡	1	4.5	千石堀城跡	2	46.8
加治・神前・畠中遺跡	1	7.2	鳥の池西遺跡	1	2.0
脇浜遺跡	1	4.2	遺跡外	5	31.9
麻生中遺跡	1	5.6			
合 計				14	115.7

平成 27 年度発掘調査一覧表

今年度は、土器などの遺物が出土したり、遺構を発見したりということはありませんでした。

丸山古墳の埴輪（ハニワ）新たに1個体分を復元

貝塚市地蔵堂には前方後円墳「丸山古墳」があり、国の史跡に指定されています。平成12年から平成14年にかけて行った古墳の外周整備工事に伴う発掘調査では、古墳の墳丘に並べられた埴輪を発見しました。筒状のかたちから円筒埴輪と呼ばれる4個体分の埴輪は、取り上げられて洗浄、復元し、平成18年度に市の文化財に指定し、毎年展示を行ってきました。昨年度に埴輪2と埴輪3の復元を行ったこととお知らせ（テンプス55号参考）しましたが、埴輪1についても接合ができることがわかり、27年度復元を行いました。埴輪には「透かし」と呼ばれる穴があげられていますが、丸山古墳から出土した埴輪では丸、逆三角形、四角のものが確認されています。復元できた埴輪1は逆三角形、埴輪2は丸形、埴輪3は逆三角形という順番に並べられていたことが明らかとなりました。



円筒埴輪1



円筒埴輪1 2 3 4

埴輪列と葺石（ふきいし）の様子



円筒埴輪2



円筒埴輪3

古絵図をひも解く

◆「蕎原村絵図」からわかる当時のようす

7ページの絵図は貝塚市内で最も内陸に位置する集落の一つ蕎原村（当時）を描いた絵図です。作られた時期はおそらく江戸時代のもので思われますが、遅くとも明治維新から数年以内までのものです。墨と朱の二色を用いていますが、墨についてはさらに濃淡を使い分けています。

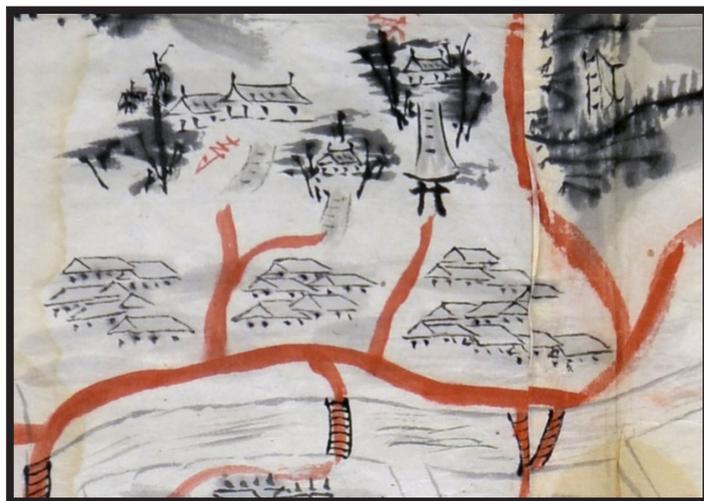
凡例はついていませんが、道を朱で描き、その先を進めばどの村に向かうか地名が書き込まれています。また、村の中で目印となる2か所の「宮林」（左に高竈（たかおかみ）〈葛城〉神社、中央に菅原神社）「寺」（常福寺）についても朱で書いています。それ



① ▲高竈〈葛城〉神社付近

（7ページ絵図を右へ90度回転し拡大した図）

以外は濃い墨で木々や家並み、神社、寺、川、池（3か所）などが描かれ、山なみは薄墨で幅広く塗っていることが確認できます。絵図左下には「方角書里数」として隣接する村（集落および村境）までの距離をまとめており、「トノ原村迄拾八町」「大川村迄拾五町」などと記されています。ここでいう「町」（ちょう）とは距離の単位で1町＝約109メートルです。



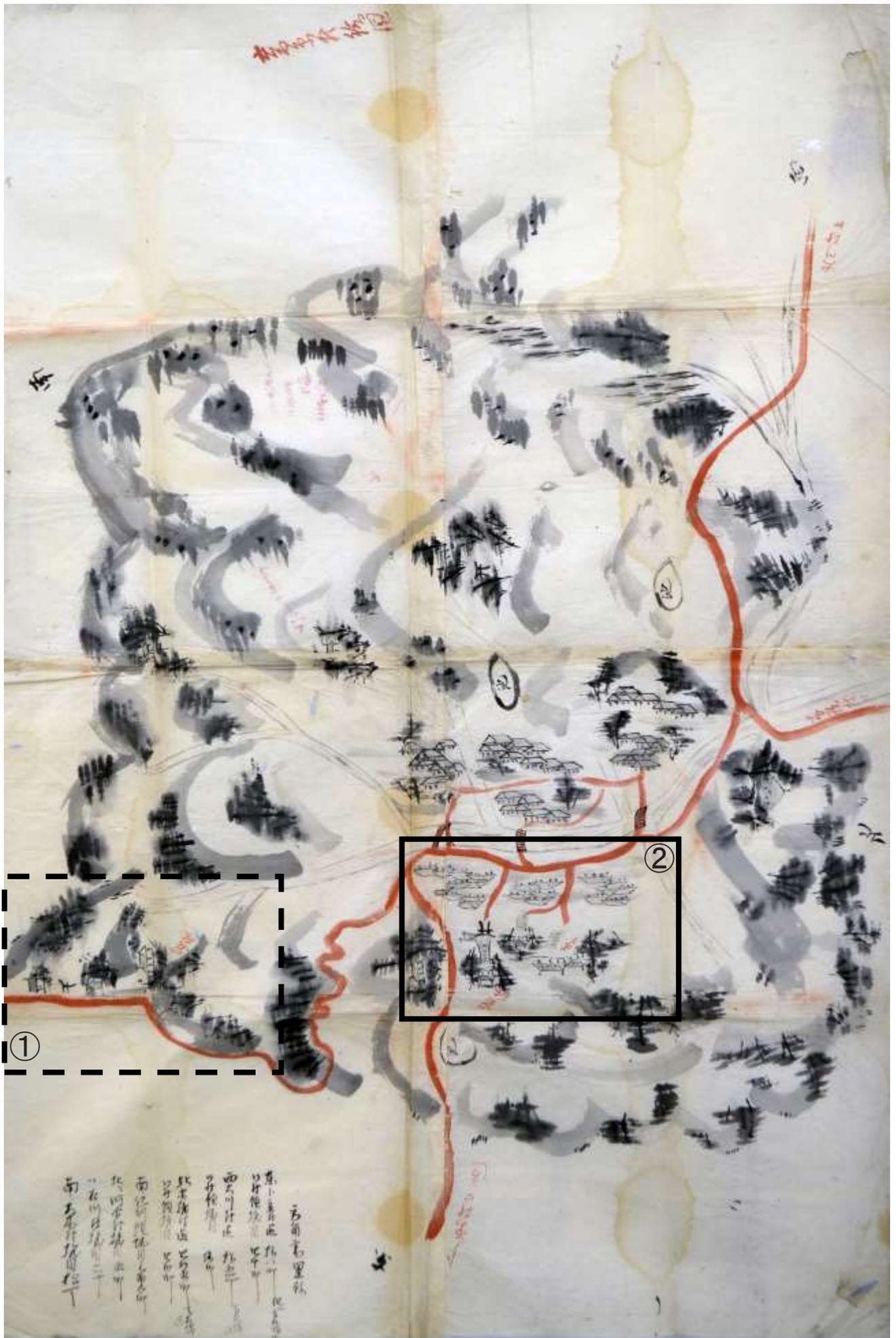
② ▲常福寺および菅原神社周辺

（7ページ絵図を180度回転し拡大した図）

絵図の向き（方角）は左上に「南」、右上に「西」、右中に「北」、中央下に「東」が確認できます。現在の北を上を描く絵図と比べて、時計回りに120度傾いています。このことは、蕎原村の集落を横長に描くための配置であり、川の上流を上、海へと続く下流を下に描く江戸時代の「和泉国」絵図とも異なります。

さらに、詳細にみていきましょう。7ページ絵図の左から右へ流れる川は近木川上流部にあたり、蕎原川とも呼ばれていますが、左側の山奥から右側の村の入口付近までの間で10本の小さな川が合流していく様子が見て取れます。中央の川の本流には河岸段丘が形成され、下流にむかって左岸に31軒、右岸に20軒の家が描き込まれ、両岸に集落を形成していたことがわかります。このことは、右岸の家数が多い現在の様子とは異なる点です。深い谷筋にあって右岸は日当たりの良い場所として地元でも認識されています。また、1910（明治43）年に西葛城神社（木積）へ合祀される前にあったと考えられる数々の神社の鳥居や建物も描かれています。

この絵図は、ふもとの方から見た山の形を描き、隣接する集落だけでなく村との境目までの距離を明示していることから、蕎原村の範囲を示す地図として作られたと考えられます。また、同時に家数がかかるように描いていることから、その集落規模も表しているものでしょう。まるで上空から俯瞰（ふかん）で見ているような印象を持つ貴重な絵図です。



蕎原村絵図〈蕎原小学校旧蔵文書〉89.5cm×60.6cm

貝塚寺内町の春をひな人形が彩りました

- 春の町家の雛めぐり -

平成 28 年 3 月 18 日（金）から 27 日（日）にかけて、貝塚寺内町地域で「春の町家の雛めぐり～雛人形と雛道具展～」が行われました。この催しは、貝塚寺内町と紀州街道沿いにある住宅などの登録有形文化財や伝統を守るとともに、地域の活性化を目指して、市民団体が中心となって取り組まれているものです。平成 15 年に始まったこの雛めぐりは、地元の春の風物詩となり、今年で 14 回目となります。



展示会場は、①南川家住宅（明治・大正・昭和くらしの資料館）、②永原表具店・肉の正和、③名加家住宅、④甘味処佐林、読売旅行待合所、⑤南新町寺田家長屋と 5 つの会場に分かれて色鮮やかでそれぞれ特徴のあるひな人形やひな道具が飾られていました。

また、期間中の土・日曜日には国の登録文化財である寺田家住宅においては、御所人形や藤原雛などのほか享保雛の特別公開が行われました。これは江戸時代に貝塚寺内町北之町の年寄であった唐津屋（岡本家）の所蔵のもので昨年の夏に発見されたばかりのものです。



かいづか文化財だよりテンプス 58 号

平成 28 年 3 月 31 日発行

貝塚市教育委員会

〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 17 - 1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

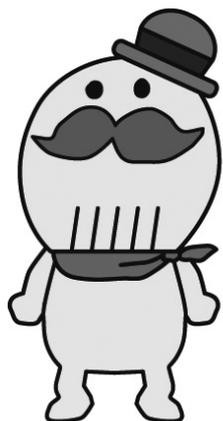
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年 3 回発行：各 1,000 部

印刷単価： 41.50 円



貝塚市イメージ
キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。イベントごとが大好き。普段はのんびり、でも祭りには萌えます。

